



センサーでバケットの位置を把握して、正確な掘削を行うバックホウと運転席に設置されたモニターで掘削勾配を確認。中津川市加子川、濃飛横断自動車道(仮称)濃飛3号橋橋梁下部工事現場



ICT施工に取り組む中島工務店の鳴海雅彦常務(右)と土木部の中川光太郎課長=中津川市茄子川、濃飛横断自動車道(仮称)濃飛3号橋橋梁下部工事現場事務所

岐阜県では建設産業の担い手確保・育成対策として、2017年に「ぎふ建設人材育成リーディング企業認定制度」を創設。労働環境の改善や人材育成などに積極的に取り組む宣言を行い、特に優秀な取り組みをしている企業をゴールド・シルバー・ブロンズの3ランクで認定している。

現在、300を超えるぎふ建設人材育成リーディング企業を知ってもらうため、県は各社の取り組みや仕事内容を紹介するホームページ(H P)を制作した。さらに今年9月には、就職活動を控えた学生や転職を考える人により充実した情報を伝えられ

### ぎふ建設人材育成リーディング企業ホームページをリニューアル

ぎふ建設人材育成リーディング企業ホームページをリニューアル

認定企業検索

検索結果

リニューアルされたぎふ建設人材育成リーディング企業のホームページ



国土交通省は、建設産業の人材不足解消には、「担い手の待遇改善」、「生産性向上」を一体として進めていくことが重要だとしている。その背景には、建設産業に根づく3K(きつい・汚い・危険)のイメージが挙げられ、これを払拭するために、ICT(情報通信技術)の活用だ。ICT建機やド

こうした点を改善するため、急速に進められているのがICT(情報通信技術)の活用だ。ICT建機やド

安全性の向上や身体的な負担軽減は重要なポイントだ。さらに、長時間労働を改善し、働き方改革を推進するためには、生産性の向上は急務といえる。

### 中島工務店

(中津川市)

ローンなどを活用することで、これまで熟練の技術が必要だった業務が若手でも可能になり、人的なミスを防いで正確な作業ができるようになるほか、危険な業務も減ることが期待される。

土木工事から公共建築工事、住宅や社寺建築まで幅広い事業を展開する中島工務店(中津川市加子母)では、約6年前から地上レーベースキャナによる3次元測量や、建設機械にセンサーを取り付けたICT建機システムなどを導入している。

濃飛横断自動車道の現場

では、地面を掘削するバックホウのバケットにセンサーを取り付け、リアルタイムで計測した位置情報を運転席のモニターに送つて掘削状況を確認するマシンガイダンスシステムを採用。従来は、一定の掘削ができる段階で、測量補助員が施工箇所に立ち入り、進歩の確認や正しい位置を示す丁張作業を行っていた。しかし、同システムはオペレーターがモニターを見ながら作業ができ、測量作業が不要となった。オペレーターも途中で機械を降りて、掘削勾配や丁張を確認していたが、その手間も軽

減。省人化や作業効率アップにつながり、測量補助員の建設機械との接触や落石などによる事故リスクも低下した。

今回の現場で、現場監督として初めてICT施工を実施した土木部の中川光太郎課長は、「オペレーターも半日ほどでモニター操作に慣れ、スムーズに導入できた。現場作業員からも、このシステムを使っていいたいとの声が上がっている」と、想像以上の効果を実感。今回は発注者がICT施工を指定した工事だったが、「これからは現場の条件を考慮して適切と判断した際には、積極的に受注者の希望によるICT施工を活用していく」と前向きな姿勢だ。

鳴海雅彦常務は、「最近は現場作業を希望する人材が少なくなっている。限られた人數で現場を回すためには機械化・ICT化が不可欠。現在は年間で受注する工事のうち3分の1ほどでICT施工を行っているが、件数を増やせるよう、人材育成にも努めています」としている。



### 若手・女性が魅力づくり

岐阜県内での就職活動を支援する「ぎふ就職活動支援センター」では、8年ぶりに開催される「ぎふ就職フェア」が11月11日(火)に開催される。会場では、県内外の企業による出展があり、就職活動を希望する若手・女性が魅力づくりを行います。